

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果の安来市の概要について

安来市教育委員会 学校教育課

令和5年4月18日に小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された、全国学力・学習状況調査の結果について、本市の概要をお知らせします。

1 調査の概要

- 本年度の調査は、小学校第6学年で国語、算数、中学校第3学年で国語、数学、外国語を全児童生徒を対象として実施されました。
- 令和元年度より、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、従来の「主として知識に関する問題」(A)と「主として活用に関する問題」(B)を見直し、「知識」と「活用」を一体的に問う出題形式となりました。
- 平成29年度より、全体の平均正答率は整数値にて公表されています。よって、各教科における全体の結果については全国との差に誤差(四捨五入の関係による)が生じることから、表示はしておりません。

2 安来市の状況

(1)教科の概要

〈小学校6年生〉

- 国語:**全体では、全国平均を上回りました。
- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」は、全国平均を上回りました。
 - －「読むこと」は、令和3年度よりも全国平均との差が小さくなりました。
 - ◎言葉の特徴や使い方に関する事項は正答率がとても高くなっています。
 - △情報の扱い方に関する事項については、正答率が低くなる傾向があります。
 - ◎「目的や意図に応じて、自分の考えをまとめること」や「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめること」などの記述問題の正答率が高くなっています。
 - 無解答率が全国平均を大きく下回っています。

- 算数:**全体として、全国平均より少し下回りました。
- －全ての領域で、全国平均との差が令和4年度よりも改善されました。
 - 「データの活用」の領域の正答率は、全国平均を上回りました。
 - 知識・技能を問う問題についての正答率が全国平均を上回ることが多くなっている。
 - △図形の性質や計量などについて、考察したことを言葉や数を用いて記述することに課題があります。

【国語】

国語		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全体		68	65	67.2	
領域	話すこと・聞くこと	74.1	70.6	72.6	1.5 ○
	書くこと	26.8	22.6	26.7	0.1 ○
	読むこと	70.9	68.0	71.2	-0.3 △
	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	74.2	70.9	71.2	3.0 ◎
	(3)情報の扱いに関する事項	61.2	61.1	63.4	-2.2 △

※安来市の平均正答率を全国平均に対して、差が
 +3ポイント以上を◎
 0~+3ポイント未満を○
 0~-3ポイント未満を△
 -3ポイント以下を▲

【算数】

算数		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全体		61	59	62.5	
領域	数と計算	65.3	63.8	67.3	-2.0 △
	図形	46.3	43.3	48.2	-1.9 △
	測定				
	変化と関係	69.7	66.6	70.9	-1.2 △
	データの活用	66.0	62.8	65.5	0.5 ○

〈中学校3年生〉

国語:全体での正答率が全国平均を下回りました。
 △「我が国の言語文化に関する事項」以外は、全国平均を下回りました。
 △「話すこと・聞くこと」は、全国平均を少し下回りました。
 ○与えられた条件に照らし合せて、自分の考えを記述する問題の正答率に改善が見られます。
 ○事象や行為、心情を表す語句についての理解はできています。
 ▲複数の資料から意見と根拠等の情報の扱い方を理解することに課題があります。

数学:全体の正答率が全国平均を大きく下回りました。
 ▲「データの活用」と「図形」は、全国平均を9ポイント以上下回りました。
 ○「関数」の問題では、正答率が全国平均を上回るものもありました。
 △「図形」の基本的な性質についての理解に課題が見られます。
 ▲記述問題におけるの無解答率が全国平均を大きく上回っています。

英語:全体の正答率が全国平均を大きく下回りました。
 -「書くこと」については、全国平均を少し下回り、県平均は上回りました。
 ▲「聞くこと」と「読むこと」は全国平均を6ポイント以上下回りました。
 -思考・判断・表現力を問う問題は、全国平均との差は大きくありません。
 ▲知識・技能を問う問題の正答率は全国平均を大きく下回りました。
 ○短い英文の概要や要点を捉えることは比較的正答率は高くなっています。
 △「文と文との関係や事実と考えを区別して正確に読み取ることに課題が見られます。

【国語】

国語		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全 体		67	70	69.8	
領域	話すこと・聞くこと	81.6	81.5	82.2	-0.6 △
	書くこと	56.9	61.2	63.2	-6.3 ▲
	読むこと	61.3	62.9	63.7	-2.4 △
	(1)言葉の特性や使い方に關する事項	63.6	70.1	67.5	-3.9 ▲
	(2)情報の扱い方に關する事項	58.8	62.7	63.4	-4.6 ▲
(3)我が国の言語文化に關する事項		75.1	75.8	74.7	0.4 ○

※安来市の平均正答率を全国平均に対して、差が
 +3ポイント以上を◎
 0~+3ポイント未満を○
 0~-3ポイント未満を△
 -3ポイント以下を▲

【数学】

数学		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全 体		43	48	51.0	
領域	数と式	54.2	58.9	63.0	-8.8 ▲
	図形	23.5	29.4	33.2	-9.7 ▲
	関数	47.2	48.4	51.2	-4.0 ▲
	データの活用	39.3	48.6	48.5	-9.2 ▲

英語		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全 体		40	40	45.6	
領域	聞くこと	52.0	52.5	58.4	-6.4 ▲
	読むこと	45.0	46.2	51.2	-6.2 ▲
	話すこと(やり取り)	10.6		14.5	-3.9 ▲
	話すこと(発表)	5.4		4.2	1.2 ○
	書くこと	19.7	17.3	23.4	-3.7 ▲

※安来市の全ての中学校が、「話すこと」の調査において、期間内実施校でした。県の平均正答率のデータはありません。

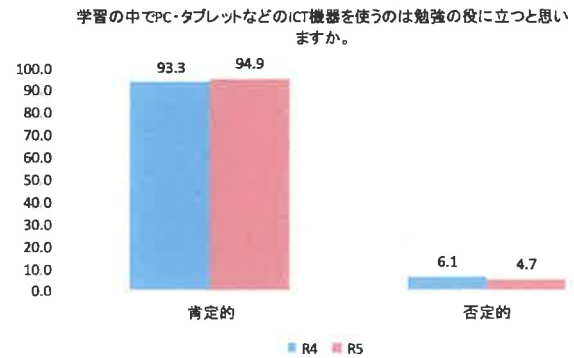
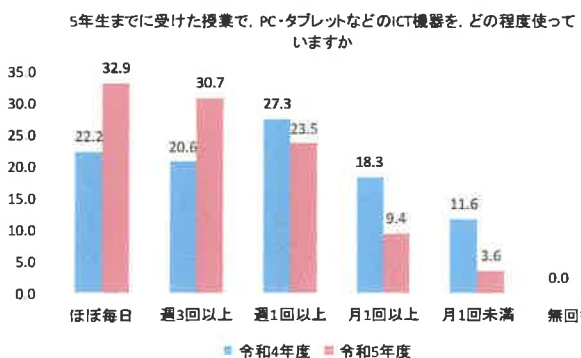
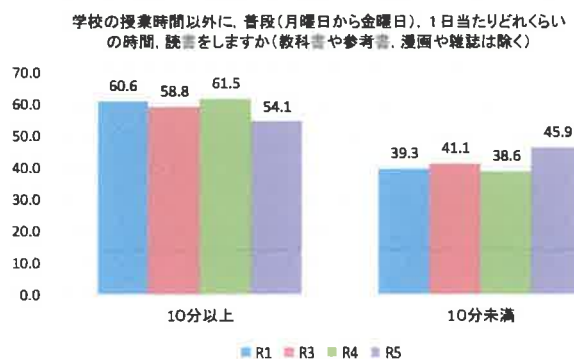
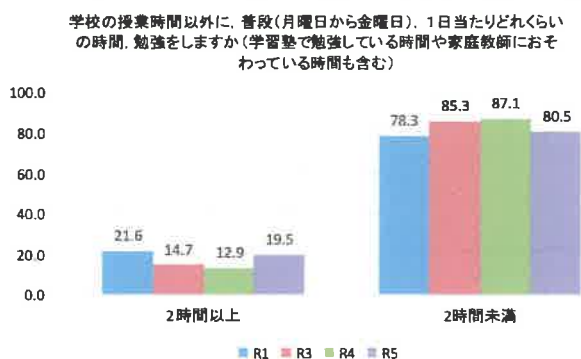
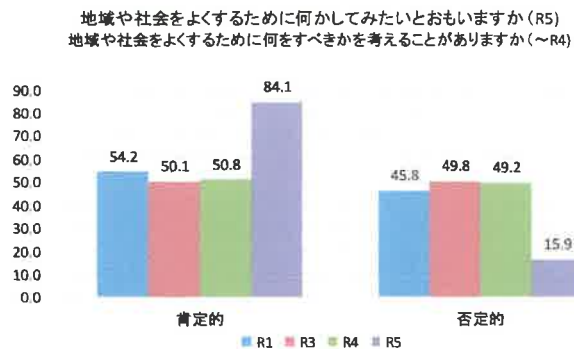
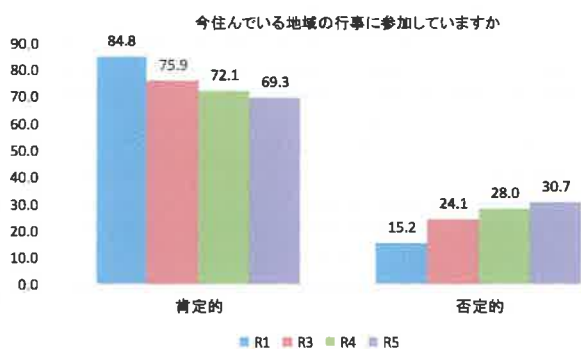
(2)学習や生活の様子(児童生徒質問紙調査より)

〈小学校6年生〉

【全国と安来市との比較で特徴的な項目】(全国平均との差)

肯定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)	
小 学 校	◎今住んでいる地域の行事に参加していますか。(+11.5)
	◎自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。(+11)
	◎あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。(+9.8)
	◎家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(+8.3)
	◎地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。(+7.3)
否定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)	
小 学 校	▲これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか。(−12.2)
	▲読書は好きですか。(−10.2)
	▲英語の勉強は好きですか。(−9.3)
	▲将来、積極的に英語を使うような生活をしたたり職業に就いたりしたいと思いますか。(−7)
	▲算数の解答時間は十分でしたか。(−6.5)

【地域・家庭に関わる項目】(過去4年の経年比較・ICT機器活用についてはR4年度より2年間)



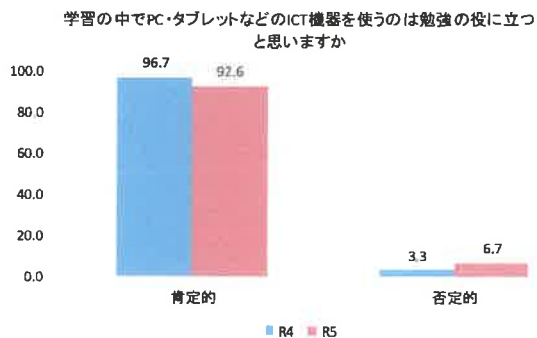
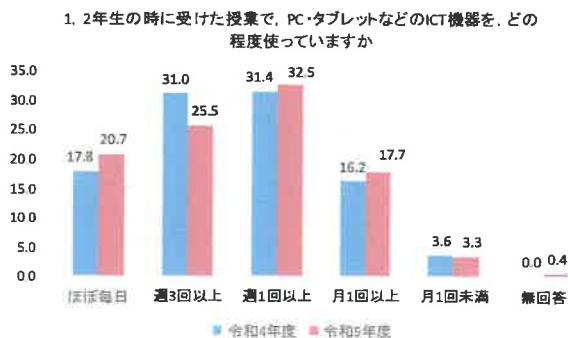
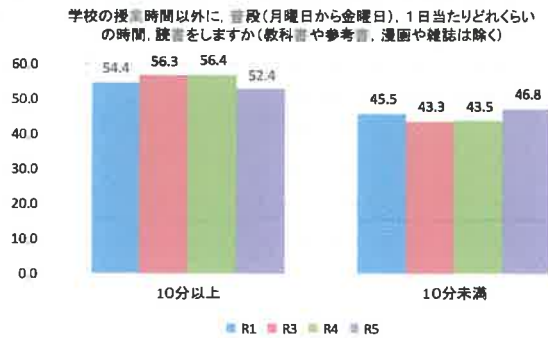
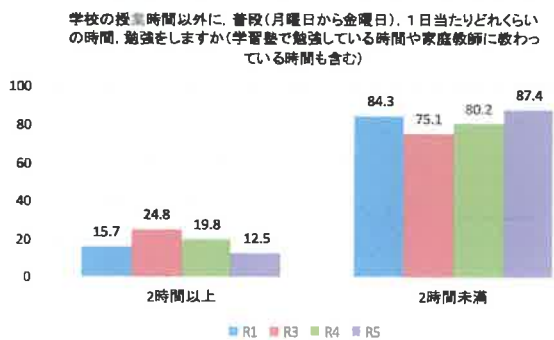
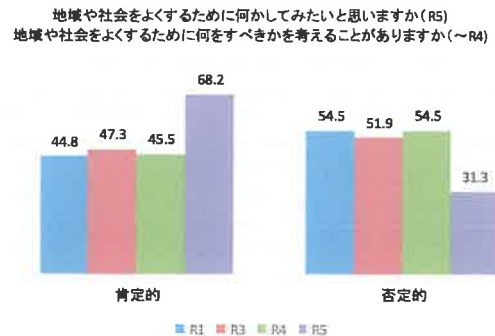
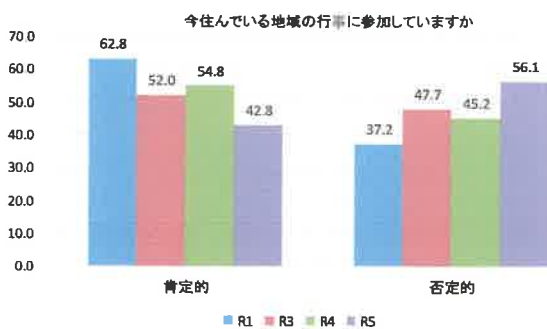
(2)学習や生活の様子(児童生徒質問紙調査より)

〈中学校3年生〉

【全国と安来市との比較で特徴的な評価項目】(全国平均との差)

肯定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)	
中 学 校	◎総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。(＋14.5)
	◎学校の部活動に参加していますか。(＋9)
	◎毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか。(＋7.2)
	◎あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。(＋7.4)
	◎日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。(＋5)
◎今住んでいる地域の行事に参加していますか。(＋4.8)	
否定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)	
中 学 校	▲数学の解答時間は十分でしたか。(－9.4)
	▲これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか。(－8.9)
	▲英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。(－7.1)
	▲1、2年のときに受けた授業では、英語を読んで概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。(－6.5)
	▲1、2年のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。(－6.4)

【地域・家庭に関わる項目】(過去4年の経年比較・ICT機器活用についてはR4年度より)



3 結果を受けて

安来市の各小・中学校では、児童・生徒の学力向上を目指し、授業改善はもとより、授業時間以外でも様々な活動に取り組んでいます。安来市教育委員会としては、全国学力・学習状況調査を分析し、さらに学校訪問や各校の授業研究会などの取組の成果や課題を考察した上で、今後の各校の学力向上に向けた具体的な改善の取組を支援していきます。

また、学習習慣や生活習慣の確立が学力の定着に極めて重要であることに鑑み、今後さらに学校と家庭とが連携する取組や保育所園・認定こども園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校が連携する取組を支援していきます。

〈学校で〉

○どの教科においても、すべての児童・生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させることが大切です。

個に応じたきめ細かな指導を充実させたり、補充的な学習を取り入れたりする必要があります。また、思考力・判断力・表現力等を育成し、理解していること・できること(知識・技能)を活用していけるようにします。学校では、各教科の学びをつなぐ探究的・発展的な学習を取り入れたり、児童・生徒が互いに学び合ったりできるような授業実践を目指して、さらなる工夫・改善が望まれます。このような学びにより、自らの学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力の育成が期待されます。

○児童・生徒が主体的に、見通しをもって学習に取り組むために、授業のはじめに学習の見通しをもたせること、また、自分が学んだこと、できるようになったこと、もっと学びたいことなどを自覚するための振り返りの活動を授業の最後に行うことが必要です。また、そのために指導者が、単元や1時間の授業の中で何をどのように評価するのかを明確にしておくことも大切です。

○学力調査において、課題の見られた設問について各校で分析し、該当の単元あるいは領域等について授業改善に取り組むことが大切です。その際、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例などを活用することが有効です。

○授業と家庭学習を結びつけた取組を進めていくことが大切です。

○地域の行事に参加する児童・生徒が全国の平均より多いことは本市の特色です。児童・生徒質問紙の「地域や社会をよくするために何かしてみたいとおもいますか」の項目で、小・中学生共、全国平均よりも肯定的な回答をしている割合が高く、地域貢献をしたいという意欲をもっている結果となっています。

今後も、児童・生徒が自ら地域と関わり、地域の課題を発見し、解決していく探究型の学習を継続していくことで、より地域に対する貢献意識が高まることが期待されます。また、この地域に対する貢献意識の高い児童・生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向にあります。今後もふるさと教育等の充実を図っていくことが大切です。

○児童生徒一人一人に確実に学習の基盤となる資質・能力を育成するために、今後更に個別最適な学び及び協働的な学びの一体的な充実が必要です。ICT機器活用の特性と強みを生かした教育活動と、今まで積み重ねた図書館活用教育の実践のベストミックスによる学習が展開されることで、子ども主体の「学びたい」へと授業の転換を図っていくことが望まれます。

○ICT機器の活用頻度は、前年度より高くなってきています。一方で、授業中自分で調べる場面、意見を交換する場面、発表する場面での活用の割合が依然として全国平均より低く、意図的に使用することが必要です。

〈家庭、地域で〉

◎ 家庭へのお願い

児童・生徒の学力の定着を図るために、以下のような取組をお願いします。

○ 基本的な生活習慣を身につけさせましょう。

・あいさつや食事、睡眠、起床時間など規則正しいリズムを身につけると、児童・生徒の本来持っている力が高まります。

○ 家庭で主体的に学習する習慣を身につけさせましょう。

(各学校で配布されている家庭学習の手引きが参考になります。)

・日々、家庭で学習すること(宿題や予習などの学習を大切にすること)は、基礎学力の定着や学力向上には不可欠です。学校では、授業と家庭学習をつなげた取組がなされています。

・今年の調査では、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目において、小・中学生ともに肯定的な回答が全国平均を上回っています。自主的な家庭学習への取組が続くようにしていきましょう。

○ 家庭でのコミュニケーションを大切にしましょう。

・学校での出来事や、テレビのニュース番組を見たり、新聞を読んだりして気づいたことなどを話しましょう。世の中のしくみや場所を知ることにつながり、語彙も増えます。

○ 日常生活の中で社会のルールやマナーを身につけさせましょう。

・お手伝いを通して自分の役割の大切さを感じ、責任感をもつことができます。

・思いやりの心や社会性などを育むことができます。

○ 読書に親しむ経験を豊かにしましょう。

・本に親しむ経験は、学習の基盤につながります。

・家で読み聞かせをしたり、一緒に読書をしたりするなど、家庭での読書の機会をさらに増やしましょう。

○ 地域の行事に積極的に参加したり、郷土の自然や文化にふれる体験をしたりしましょう。

・ふるさとへの理解を深め、ふるさとを愛する心が育まれます。

・地域のひととの温かなふれ合いが、規範意識、コミュニケーション力、自尊感情を高めます。

◎ 地域の皆様へのお願い

・「地域の行事に参加している」児童生徒が多いことは、本市の大きな強みと言えます。これは、本市で進めているふるさと教育に対して地域の皆様にご協力をいただいている賜物であると考えています。

・ふるさと教育については、より充実したものになるように今後も取り組んでいきますので、引き続きご支援よろしくをお願いします。